



BEA WebLogic Platform™

コンフィギュレーション
ウィザードの使い方

著作権

Copyright © 2002, BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA からの書面による事前の同意なしに、複製、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、および WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Enterprise Platform、BEA WebLogic Express、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Platform、BEA WebLogic Portal、BEA WebLogic Server、BEA WebLogic Workshop および How Business Becomes E-Business は、BEA Systems, Inc. の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社がその権利を有します。

BEA WebLogic Platform コンフィグレーション ウィザードの使い方

パート番号	マニュアルの日付	ソフトウェアのバージョン
なし	2002 年 9 月	7.0 (Service Pack 1)

目次

このマニュアルの内容

対象読者.....	v
e-docs Web サイト.....	v
このマニュアルの印刷方法.....	vi
関連情報.....	vi
サポート情報.....	vi
表記規則.....	vii

1. コンフィグレーション ウィザードについて

WebLogic ドメインとは？.....	1-1
ドメインの一般的なタイプ.....	1-2
WebLogic ドメイン作成のためのツール.....	1-2
コンフィグレーション ウィザード.....	1-3
WebLogic Administration Console.....	1-3
WebLogic Integration データベース ウィザード.....	1-4
コンフィグレーション ウィザードで何が作成されるか？.....	1-4
WebLogic ドメイン作成前の作業.....	1-6
使用するコンフィグレーション ウィザード テンプレートの決定.....	1-7
ドメインのコンフィグレーションの決定.....	1-9
サーバ名およびリスン アドレスの決定.....	1-10
サーバ名に関する考慮事項.....	1-10
リスン アドレスに関する考慮事項.....	1-10
新しいドメイン作成の手順.....	1-11

2. 新しい WebLogic ドメインの作成

コンフィグレーション ウィザードの開始.....	2-1
GUI モードで開始.....	2-2
コンソール モードで開始.....	2-3

管理サーバおよび管理対象サーバを持つドメインの作成.....	2-4
管理サーバおよびクラスタを持つドメインの作成.....	2-7
シングルサーバドメインの作成.....	2-10
既存の WebLogic ドメインの拡張.....	2-12

このマニュアルの内容

このマニュアルでは、[コンフィグレーション]ウィザードを使用して、新しく **WebLogic Platform** ドメインを作成する方法について説明します。主な内容は、[コンフィグレーション]ウィザードについてですが、ドメインをコンフィグレーションするためのツールや、作業についても説明しています。

マニュアルの内容は以下のとおりです。

- 第1章「コンフィグレーションウィザードについて」では、**WebLogic Platform** ドメイン作成についてのコンセプトと、作成前に必要な作業について説明します。
- 第2章「新しい **WebLogic** ドメインの作成」では、新しく **WebLogic Platform** ドメインを作成する方法について説明します。

対象読者

このマニュアルは、**WebLogic Platform** 環境で、ドメインをコンフィグレーションするシステム管理者およびアプリケーション開発者を対象にしています。このため、読者は、**WebLogic Server** および **WebLogic** ドメインのコンセプトに熟知していることが前提となっています。

e-docs Web サイト

BEA 製品のドキュメントは、BEA の Web サイトで入手できます。BEA ホームページから [製品のドキュメント] をクリックするか、直接「e-docs」の製品マニュアルページ (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html>) に移動してください。

このマニュアルの印刷方法

Web ブラウザの [ファイル | 印刷] オプションを使用して、Web ブラウザからこのマニュアルを一度に 1 章ずつ印刷できます。

このマニュアルの PDF 版は、WebLogic Platform の Web サイトで入手できます。また、ドキュメント CD にも収録されています。PDF 版は Adobe Acrobat Reader で開いてください。マニュアル全体または一部をブック形式で印刷できます。PDF を表示するには、WebLogic Platform ドキュメントのホーム ページを開き、[PDF files] ボタンをクリックして、印刷するマニュアルを選択します。

Adobe Acrobat Reader をお持ちでない場合、Adobe Web サイト (<http://www.adobe.co.jp/>) から無償で入手できます。

関連情報

BEA の Web サイトでは、WebLogic Platform の全マニュアルを提供しています。ドメインについて理解し、コンフィグレーションや管理を行うためには、次の WebLogic Platform マニュアルが有用です。

- 『WebLogic Platform のインストール』
- 『WebLogic Server ドメイン管理』
- 『WebLogic Server クラスタ ユーザーズ ガイド』
- 『WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ』

サポート情報

BEA のドキュメントに関するユーザからのフィードバックは弊社にとって非常に重要です。質問や意見などがあれば、電子メールで

docsupport-jp@beasys.com までお送りください。寄せられた意見については、ドキュメントを作成および改訂する BEA の専門の担当者が直に目を通します。

電子メールのメッセージには、ご使用のソフトウェアの名前とバージョン、およびドキュメントのタイトルと日付をお書き添えください。本バージョンの **BEA WebLogic Platform** について不明な点がある場合、または **BEA WebLogic Platform** のインストールおよび動作に問題がある場合は、**BEA WebSupport (www.bea.com)** を通じて **BEA カスタマ サポート** までお問い合わせください。カスタマ サポートへの連絡方法については、製品パッケージに同梱されているカスタマ サポート カードにも記載されています。

カスタマ サポートでは以下の情報をお尋ねしますので、お問い合わせの際はあらかじめご用意ください。

- お名前、電子メール アドレス、電話番号、ファクス番号
- 会社の名前と住所
- お使いの機種とコード番号
- 製品の名前とバージョン
- 問題の状況と表示されるエラー メッセージの内容

表記規則

このマニュアルでは、全体を通して以下の表記規則が使用されています。

表記法	説明
[Ctrl] + [Tab]	2 つ以上のキーを同時に押すことを示す。
<i>斜体</i>	強調または書籍のタイトルを示す。

表記法	説明
等幅テキスト	<p>コード サンプル、コマンドとそのオプション、データ構造とそのメンバー、データ型、ディレクトリ、ファイル名とその拡張子を示す。また、キーボードから入力するテキストも示す。</p> <p>例:</p> <pre>import java.util.Enumeration; chmod u+w * config/examples/applications .java config.xml float</pre>
斜体の等幅テキスト	<p>コード内の変数を示す。</p> <p>例:</p> <pre>String <i>CustomerName</i>;</pre>
すべて大文字のテキスト	<p>デバイス名、環境変数、および論理演算子を示す。</p> <p>例:</p> <pre>LPT1 BEA_HOME OR</pre>
{ }	<p>構文の中で複数の選択肢を示す。{ } 自体は、入力しない。</p>
[]	<p>構文の中で任意指定の項目を示す。[] 自体は、入力しない。</p> <p>例:</p> <pre>java.utils.MultiCastTest -n name -a address [-p portnumber] [-t timeout] [-s send]</pre>
	<p>構文の中で相互に排他的な選択肢を区切る。 自体は、入力しない。</p> <pre>java weblogic.deploy [list deploy undeploy update] password {application} {source}</pre>

表記法	説明
...	<p>コマンド ラインで以下のいずれかを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 引数を複数回繰り返すことができる。 ■ 任意指定の引数が省略されている。 ■ パラメータや値などの情報を追加入力できる。 <p>... 自体は、入力しない。</p> <p>例:</p> <pre>buildobjclient [-v] [-o name] [-f file-list]... [-l file-list]...</pre>
. . .	<p>コード サンプルまたは構文で項目が省略されていることを示す。 垂直の省略記号自体は、入力しない。</p>



1 コンフィグレーション ウィザードについて

[コンフィグレーション] ウィザードを使用すると、独自の **WebLogic Platform** ドメインを作成できます。スタンドアロン サーバ、管理対象サーバを持つ管理サーバ、クラスタ化されたサーバなどのドメインをコンフィグレーションするためには、このツールを使用します。

以下の節では、ドメインを作成する前に知っておくべきコンセプトと、必要な作業について説明します。

- **WebLogic** ドメインとは？
- コンフィグレーション ウィザードで何が作成されるか？
- **WebLogic** ドメイン作成前の作業
- 新しいドメイン作成の手順

WebLogic ドメインとは？

WebLogic Server の基本管理単位は、ドメインです。ドメインとは、**WebLogic Server** リソースが相互に関連付けられたもので、1つの単位として管理されます。1つのドメインには、1つ以上の **WebLogic Server** インスタンスがあり、**WebLogic Server** クラスタが含まれている場合もあります。クラスタとは、高いスケーラビリティとアプリケーションの可用性を提供するために、共に動作する **WebLogic Server** のグループです。

各ドメインの **WebLogic Server** インスタンスの1つは、管理サーバとしてコンフィグレーションされます。**WebLogic** ドメインでは、この管理サーバが管理の中心となります。ドメインの管理サーバ以外のすべての **WebLogic Server** インスタンス

タンスは、管理対象サーバと呼ばれます。ドメインに 1 つの **WebLogic Server** インスタンスしかない場合は、このサーバが、管理サーバとしても、管理対象サーバとしても機能します。

ドメインのコンテンツ、機能、コンフィグレーションの詳細については、次の URL の『*WebLogic Server* ドメイン管理』を参照してください。

http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/admin_domain/index.html

ドメインの一般的なタイプ

ドメインの一般的なコンフィグレーションは、以下のとおりです。

- **管理対象サーバを持つドメイン**：最も簡単なプロダクション環境は、**Web** アプリケーションをホストする何台かの管理対象サーバと、管理作業を行う管理サーバ (1 台) を配置したものです。
- **管理対象サーバおよびクラスタを持つドメイン**：プロダクション環境で、パフォーマンス、スループット、**Web** アプリケーションの可用性を向上させるには、管理対象サーバの一部をクラスタとして設定します。この場合、ドメインは、アプリケーションをホストする 1 つ以上のクラスタ、管理対象サーバ (必要に応じて)、管理作業を行う管理サーバで構成されます。
- **スタンドアロンサーバのドメイン**：開発またはテスト環境では、他の管理対象サーバとは独立に、単一のアプリケーションサーバを配置する場合があります。この場合は、ドメインを単一の管理サーバで構成し、このサーバにテストまたは開発する **Web** アプリケーションを保存します。**WebLogic Server** でインストール可能なドメインの「例」は、スタンドアロンドメインの例です。

注意：プロダクション環境では、アプリケーションは管理対象サーバにデプロイし、管理サーバは管理作業にのみ使用することをお勧めします。

WebLogic ドメイン作成のためのツール

ドメインの作成は、**WebLogic Platform** 環境の基礎です。**WebLogic** ドメインを作成および管理するためのさまざまなツールと作業手順が準備されています。次の節では、ドメインを作成および管理する際に使用するさまざまなツールの概要と役割について説明します。

コンフィグレーション ウィザード

[コンフィグレーション]ウィザードは、あらかじめコンフィグレーションされたドメイン テンプレートを使用し、目的の環境に合わせてドメインを作成するための独立したツールです。テンプレートは、1-2 ページの「ドメインの一般的なタイプ」で説明される基本的なドメインのタイプに対応しています。[コンフィグレーション]ウィザードは、サーバに対してドメインのレイアウトを記述する `config.xml` ファイルの作成など、ドメインに適切なディレクトリ構造およびスクリプトもインストールします。

[コンフィグレーション]ウィザードは、グラフィカル ユーザ インタフェース (graphical user interface: GUI) とテキストベースのコマンドライン オプションの両方で使用できます。また、カスタム インストールの途中でも、インストールが終了した後でも起動できます。

注意： [コンフィグレーション]ウィザードを使用すると、新しいドメインを作成したり、管理対象サーバを追加することによって、既存のドメインを拡張できます。WebLogic Server の前のバージョンから WebLogic Platform への移行、および既存ドメインの変更についてはサポートしていません。

WebLogic Administration Console

WebLogic Administration Console の機能の 1 つとして、[コンフィグレーション]ウィザードを使用して作成したドメインの拡張があります。Administration Console を使用すると、ネットワークの定義およびデータベース接続の定義を含むようにドメインの定義を拡張したり、ドメインの状態を管理、監視することができます。WebLogic Administration Console を使用して、既存のドメインを変更することもできます。

WebLogic Administration Console の詳細については、次の URL の『Administration Console オンラインヘルプ』を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/ConsoleHelp/index.html>

WebLogic Integration データベース ウィザード

[コンフィグレーション] ウィザードおよび WebLogic Administration Console の使用後、[データベース] ウィザードを用いて、WebLogic Integration コンポーネントを使用するデータベースの接続をコンフィグレーションします。[データベース] ウィザードの詳細については、次の URL の『WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ』を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wli/docs70/config/index.htm>

コンフィグレーション ウィザードで何が作成されるか？

[コンフィグレーション] ウィザードの指示に従って入力すると、ドメインのレイアウトや、追加したサーバについての基本的なネットワーク コンフィグレーションが記述された新しい config.xml ファイルが作成されます。config.xml ファイルおよび生成されたすべてのコンポーネントは、指定されるドメイン サブディレクトリに保存されます。

[コンフィグレーション] ウィザードを使用すると、config.xml ファイルを作成するほかにも、サーバの起動スクリプト、アプリケーション サブディレクトリなど、新しいドメインとそのサーバを起動して使用するためのファイルやディレクトリを作成できます。スクリプトには、[コンフィグレーション] ウィザードで入力された値が設定されます。

注意： ドメイン ディレクトリは、システム上の任意の場所に作成できます。たとえば、リファレンスをデフォルトの場所に置き、DOMAIN_HOME として参照することができます。

DOMAIN_HOME は、BEA_HOME/user_projects/domain を表します。ここで、

BEA_HOME は、WebLogic Platform がインストールされた BEA ホームディレクトリを示し、デフォルトでは c:\bea です。

user_projects は、ドメインのディレクトリの場所を表します。

domain は、ドメイン ディレクトリの名前です。

コンフィグレーション ウィザードで何が作成されるか？

次の表は、[コンフィグレーション]ウィザードによって、新しいドメインにインストールされる基本的なディレクトリおよびファイルを示します。選択するテンプレートおよび作成されるドメインのタイプによっては、ドメインディレクトリに、下記以外のファイルがインストールされる場合もあります。

コンポーネント	機能
/applications	ドメインのサーバ用にデフォルトの Web アプリケーションを保存する。 注意： WebLogic Server Pet Store アプリケーションのように、コンポーネント例を含むテンプレートを選択した場合は、サンプルアプリケーションも applications サブディレクトリにコピーされる。
/logs	ドメインのサーバ用ログ ファイルを保存する。
/dbInfo	データベースを作成および初期化するとき使用するデータベース固有の情報。 次のサブディレクトリを含む(サポートするデータベースに対応)。 <ul style="list-style-type: none">■ oracle: Oracle Server データベース■ pointbase: PointBase データベース■ mssql: Microsoft SQL Server データベース 各データベース ディレクトリ内には、次のファイルが定義される。 <ul style="list-style-type: none">■ setDBVars コマンド：ドメインの基本データベース変数■ setDBVarsExt コマンド：ドメインの拡張データベース変数
setEnv.cmd、setEnv.sh	ドメイン サーバの環境変数を設定する。
setExamplesEnv.cmd、setExamplesEnv.sh	WebLogic Server のサンプル アプリケーションを含むドメインの環境変数を設定する。

1 コンフィグレーション ウィザードについて

コンポーネント	機能
<code>startWebLogic.cmd</code> 、 <code>startWebLogic.sh</code>	カスタムドメインの管理サーバを起動する。
<code>stopWebLogic.cmd</code> 、 <code>stopWebLogic.sh</code>	カスタムドメインの管理サーバを起動する。
<code>startManagedWebLogic.cmd</code> 、 <code>startManagedWebLogic.sh</code>	カスタムドメインの管理対象サーバを起動する。
<code>startExamplesServer.cmd</code> 、 <code>startExamplesServer.sh</code>	WebLogic Server のサンプルアプリケーションをホストするサーバを起動する。
<code>startPetStore.cmd</code> 、 <code>startPetStore.sh</code>	Pet Store のサンプルアプリケーションをホストするサーバを起動する。
<code>demokey.pem</code> 、 <code>democert.pem</code>	ドメインのサーバ用にサンプル SSL プロトコルを提供する。
<code>installService.cmd</code> 、 <code>uninstallService.cmd</code>	Windows サービスとして、ドメインのサーバをインストールまたはアンインストールする。 <code>installService.cmd</code> スクリプトは、 <code>installSvc.cmd</code> を呼び出し、 Windows のシステムが起動されるたびにサービスを開始できるように、 Windows レジストリにサービスのエントリを作成する。
Windows スタートメニュー項目	Windows 環境で、ドメインサーバを [スタート] メニューから起動できるようにする。

WebLogic ドメイン作成前の作業

WebLogic Server マニュアルに書かれた WebLogic ドメインのコンセプトと手順を確認してください。[コンフィグレーション] ウィザードを使用して新しいドメインを作成する前に、次の作業を行います。

- 使用するコンフィグレーション ウィザード テンプレートの決定

- ドメインのコンフィグレーションの決定
- サーバ名およびリスン アドレスの決定

使用するコンフィグレーション ウィザード テンプレートの決定

[コンフィグレーション] ウィザードには、WebLogic ドメインを作成するためのドメイン テンプレートが必要です。[コンフィグレーション] ウィザードのテンプレートは、カスタムドメインを新しく作成するために必要なファイルおよびスクリプトを集めた Java ARchive ファイル (JAR ファイル) です。WebLogic Platform では、製品の一部として、あらかじめコンフィグレーションされたドメイン テンプレートがインストールされます。あらかじめコンフィグレーションされたこれらのテンプレートは、WebLogic Platform がインストールされたディレクトリ (デフォルトでは `weblogic700` という名前) `common\templates\domains` にあります。以下の表に、簡単な説明を示します。

注意: あらかじめコンフィグレーションされたテンプレートの使用可能なリストは、インストールされる WebLogic Platform によって異なります。テンプレートの詳細については、次の URL の『コンフィグレーション ウィザード テンプレート リファレンス』を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/template/index.html>

WebLogic Platform コンポーネント	テンプレート名	説明
WebLogic Platform (すべてのコンポーネントがインストールされる)	Platform Domain	このドメイン テンプレートには、すべての WebLogic Platform コンポーネントを使用してアプリケーションを開発するためのスケルトンが存在する。
WebLogic Server	WLS Domain	このテンプレートは、サンプルアプリケーションをドメインのサーバ上にインストールせずに、基本的な WebLogic Server ドメインを作成する。
WebLogic Server	WLS Petstore	このテンプレートは、Pet Store サンプルドメインに対応した WebLogic Server ドメインを作成する。

1 コンフィグレーション ウィザードについて

WebLogic Platform コンポーネント	テンプレート名	説明
WebLogic Server	WLS Examples	このテンプレートは、WebLogic Server Examples ドメインに対応した WebLogic Server ドメインを作成する。
WebLogic Server	WebLogic Workshop	WebLogic Workshop ソリューションを開発する場合は、このドメイン テンプレートを使用する。
WebLogic Integration	BPM Domain	ビジネスプロセス管理のソリューションを開発する場合は、このドメイン テンプレートを使用する。ビジネスプロセス管理 (business process management: BPM) およびデータ統合に関連付けられた WebLogic Integration の機能は、このドメイン内でサポートされる。
WebLogic Integration	EAI Domain	エンタープライズアプリケーションの統合ソリューションを開発する場合は、このドメイン テンプレートを使用する。BPM、アプリケーション統合、およびデータ統合に関連付けられた WebLogic Integration 機能は、このドメイン内でサポートされる。
WebLogic Integration	WLI Domain	WebLogic Integration 機能のすべてを利用したソリューションを開発する場合は、このドメイン テンプレートを使用する。アプリケーション統合、データ統合、BPM、B2B 統合に関連付けられた WebLogic Integration 機能は、このドメイン内でサポートされる。
WebLogic Portal	WLP Domain	WebLogic Portal ソリューションを開発する場合は、このドメイン テンプレートを使用する。

ドメインのコンフィグレーションの決定

[コンフィグレーション]ウィザードには、ドメインに作成するサーバの数およびレイアウトを記述するためのオプションがあります。[コンフィグレーション]ウィザードのドメイン オプションは、1-2 ページの「ドメインの一般的なタイプ」で記述されたドメイン タイプの一覧に対応し、次のとおりです。

- **Single Server (Standalone Server):** このオプションは、管理サーバと、アプリケーションをホストするサーバの 2 つの役割を果たすサーバが 1 つだけのドメインを作成します。このタイプのドメインは、プロダクション環境ではなく、開発またはテスト用に使用します。このタイプのドメインの作成方法については、2-10 ページの「シングルサーバドメインの作成」を参照してください。
- **Admin Server with Managed Server(s):** このオプションは、アプリケーションをホストする 1 つ以上の管理対象サーバと、これとは別の管理専用サーバを持つドメインを作成します。このタイプのドメインの作成方法については、2-4 ページの「管理サーバおよび管理対象サーバを持つドメインの作成」を参照してください。
- **Admin Server with Clustered Managed Server(s):** このオプションは、管理対象サーバのクラスタと、これとは別の管理専用サーバを持つドメインを作成します。このタイプのドメインの作成方法については、2-7 ページの「管理サーバおよびクラスタを持つドメインの作成」を参照してください。

注意： クラスタの詳細については、次の URL の『*WebLogic Server* クラスタ ユーザーズガイド』を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/cluster/index.html>

- **Managed Server (with owning Admin Server configuration):** このオプションを指定する場合は、新しいドメインは作成されません。代わりに、新しい管理対象サーバが作成され、既存の WebLogic Server ドメインが拡張されます。[コンフィグレーション]ウィザードで、管理対象サーバを接続する既存の管理サーバを指定します。詳細については、2-12 ページの「既存の WebLogic ドメインの拡張」を参照してください。

注意： ドメインのノード マネージャをコンフィグレーションするなど、管理対象サーバに対してこれ以外の作業もあります。この作業は、WebLogic Administration Console を使用して行います。WebLogic Administration Console の使用方法の詳細については、次の URL の『*WebLogic Server* ドメイン管理』を参照してください。

1 コンフィグレーション ウィザードについて

http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/admin_domain/index.html

ドメインのコンフィグレーションに必要な条件を決定したら、管理サーバおよび管理対象サーバのサーバ名、ポート、IP アドレスなど、コンフィグレーションに必要な情報を決定するための手順を確認します。

サーバ名およびリスン アドレスの決定

[コンフィグレーション]ウィザードでは、作成するサーバ インスタンスごとに名前を割り当て、リスン アドレスを識別するよう求められます。以下の節では、サーバ名およびリスン アドレスの設定に関する重要な考慮事項について説明します。

サーバ名に関する考慮事項

WebLogic 環境では、サーバが属しているドメインやクラスタ、およびそのサーバが管理サーバであるか管理対象サーバであるかに関係なく、サーバ インスタンスごとに一意の名前を割り当てる必要があります。

リスン アドレスに関する考慮事項

次の表は、リスン アドレス値の設定に関する重要な考慮事項を示しています。

リスン アドレスの設定値	条件と注意事項
IP アドレスまたは DNS 名	<ul style="list-style-type: none">■ サーバ インスタンスに接続するには、プロセスで IP アドレスまたは DNS 名を指定する必要がある。■ クライアントで localhost を指定すると接続できない。■ localhost を使用している既存のプロセスを、サーバ インスタンスに接続するよう更新する必要がある。

リスン アドレスの 設定値	条件と注意事項
localhost	<ul style="list-style-type: none">■ サーバ インスタンスに接続するには、プロセスで localhost を指定する必要がある。■ サーバ インスタンス (ローカルプロセス) のホスト マシンに常駐するプロセスだけが、そのサーバ インスタンスに接続できる。■ リモート (ローカル以外の) プロセスは、サーバ インスタンスに接続できない。
未定義または空白 ("")	<ul style="list-style-type: none">■ サーバ インスタンスに接続するには、プロセスで IP アドレス、DNS 名、または localhost を指定できる。■ localhost を指定するプロセスは、そのサーバ インスタンスのホスト マシンに常駐している必要がある。■ サーバ インスタンスが localhost としてアクセスされる必要があり (localhost に接続する管理スクリプトが存在する場合など)、リモート プロセスからもアクセス可能にする場合は、リスン アドレスを空白にする。 <p>注意： WebLogic サーバをマルチホームの Windows NT マシンで実行する場合は、リスン アドレス値を未定義または空白のままにしないでください (マルチホーム マシンは、複数の IP アドレスでコンフィグレーションされています)。未定義または空白のままにしておくと、マシンの IP アドレスごとにポートが予約およびリスンされます。そのため、他のサーバがそのマシンの同じポートを使用できなくなります。</p>

新しいドメイン作成の手順

次の手順を参考にして、新しい WebLogic ドメインを作成してください。

1 コンフィグレーション ウィザードについて

作業	参照先
1. WebLogic Platform をインストールする。	次の URL の『 <i>WebLogic Platform のインストール</i> 』 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/platform/docs70/install/index.html
2. ドメインのコンフィグレーション必要条件を確定する。	1-6 ページの「WebLogic ドメイン作成前の作業」
3. 新しいドメインを作成するための [コンフィグレーション] ウィザードを開始する。	2-1 ページの「コンフィグレーション ウィザードの開始」
4. 新しいドメインを作成する。	2-1 ページの「新しい WebLogic ドメインの作成」
5. ネットワーク接続、ノード マネージャ、データベース接続プール、クラスタなど、オプションのドメイン定義を設定する。	次の URL の『 <i>WebLogic Server ドメイン管理</i> 』 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/admin_domain/index.html および 次の URL の『 <i>WebLogic Server クラスタ ユーザーズガイド</i> 』 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/cluster/index.html
注意： このオプションの設定は、必要なドメインによって変わります。	

作業	参照先
6. データベースをコンフィグレーションするための WebLogic Integration データベースリポジトリを初期化する。	次の URL の『 <i>WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ</i> 』 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wli/docs70/config/index.htm
注意： この操作は、ドメインが WebLogic Integration の機能をサポートしているときにのみ必要です。	
7. WebLogic Server を起動する。	次の URL にある『 <i>BEA WebLogic Server 管理者ガイド</i> 』の「WebLogic Server の起動と停止」 http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/adminguide/startstop.html

1 コンフィグレーションウィザードについて

2 新しい WebLogic ドメインの作成

[コンフィグレーション] ウィザードに従って操作すると、新しいドメインをコンフィグレーションできます。この際に必要な情報は、コンフィグレーションするドメインのタイプによって異なります。1-1 ページの「コンフィグレーション ウィザードについて」に記載された作業を終了している場合は、[コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードまたはコンソール モードで実行し、ドメインのディレクトリ構造を確認できます。

この節では、次のトピックについて説明します。

- コンフィグレーション ウィザードの開始
- 管理サーバおよび管理対象サーバを持つドメインの作成
- 管理サーバおよびクラスタを持つドメインの作成
- シングルサーバドメインの作成
- 既存の WebLogic ドメインの拡張

コンフィグレーション ウィザードの開始

WebLogic Platform インストールプログラムには、ユーザがカスタム インストールを行う場合に、自動的に [コンフィグレーション] ウィザードを開始する機能があります。また、WebLogic Server のインストール後には、いつでも、GUI またはコンソール (コマンドライン) インタフェースを使用して、[コンフィグレーション] ウィザードを開始できます。

GUI モードで開始

[コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで実行すると、Windows および UNIX システム (サポートしているもののみ) で使用可能なコンフィグレーション ウィザード プログラムが、グラフィック環境で実行されます

[コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで実行するには、WebLogic Platform をインストールするマシンのコンソールが、Java ベースの GUI をサポートしている必要があります。Windows システム用コンソールは、すべて Java ベースの GUI をサポートしていますが、UNIX システム用のコンソールには、Java ベースの GUI をサポートしていないものがあります。

注意: グラフィック表示をサポートしていないシステム上で [コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで開始しようとすると、[コンフィグレーション] ウィザードは自動的にコンソール モードで開始されます。

Windows プラットフォーム上で [コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで開始するには、Windows の [スタート] メニューから BEA プログラム グループを選択し、[Domain コンフィグレーション ウィザード] オプションを選択します。

[スタート | プログラム | BEA WebLogic Platform7.0 | Domain Configuration Wizard]

UNIX プラットフォーム上で [コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで開始するには (または、Windows コマンド プロンプトで開始するには)、次の手順に従ってください。

1. 目的の Windows または UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. WebLogic Platform をインストールしたディレクトリにある /common/bin サブディレクトリに移動します。例:

```
cd c:/bea/weblogic700/common/bin
```

4. dmwiz.cmd または dmwiz.sh スクリプトを起動し、[コンフィグレーション] ウィザードを開始します。

```
dmwiz.cmd
```

コンソール モードで開始

[コンフィグレーション]ウィザードをコンソールモードで実行すると、Windows および UNIX システム (サポートしているもののみ) で使用可能なコンフィグレーション ウィザード プログラムが、テキスト ベース環境で実行されます。

注意: グラフィック表示をサポートしていないシステム上で [コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで開始しようとする、[コンフィグレーション] ウィザードは自動的にコンソール モードでインストールを開始します。

コンソールモードで [コンフィグレーション] ウィザードを開始するには、次の手順に従ってください。

1. 目的の Windows または UNIX システムにログインします。
2. コマンドライン シェルを開きます。
3. **WebLogic Platform** をインストールしたディレクトリにある `\common\bin` サブディレクトリに移動します。例:

```
cd c:\bea\weblogic700\common\bin
```

4. `dmwiz.cmd` または `dmwiz.sh` スクリプトを起動し、[コンフィグレーション] ウィザードを開始します。

```
dmwiz.sh -mode=console
```

5. 新しいドメインを作成するサーバを決めます。コンソールモードで、[コンフィグレーション] ウィザードを使用して新しいドメインを作成するには、各セクションの入力箇所ですべての番号を入力するか、デフォルトの値を使用する場合は [Enter] を押します。→ は、デフォルトの値を表します。[コンフィグレーション] ウィザードを終了するには、任意の入力箇所に `exit` を入力します。選択の確認または変更を行うには、入力箇所ですべて `previous` を入力します。

管理サーバおよび管理対象サーバを持つドメインの作成

WebLogic ドメインを、管理対象サーバを持つ管理サーバとして実行すると、複数のサーバが存在する非クラスタ環境で実行することになります。この場合、ドメインには 1 つの管理サーバと、これ以外の少なくとも 1 つの管理対象サーバがあります。

注意： 管理対象サーバには、WebLogic Server のインスタンスをインストールし、ドメインの一部とするために、さらにコンフィグレーションする必要があります。管理対象サーバの詳細については、BEA WebLogic Server のマニュアルおよび 2-12 ページの「既存の WebLogic ドメインの拡張」を参照してください。

1 つ以上の管理対象サーバおよびスタンドアロンの管理サーバを持つ新しいドメインを作成するには、次の手順に従ってください。

1. 2-1 ページの「コンフィグレーション ウィザードの開始」に記載された手順に従って、[コンフィグレーション] ウィザードを開始します。以降の手順は、[コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで実行していると仮定して説明されています。
[コンフィグレーション] ウィザードに、[ドメインのタイプと名前を選択] 画面が表示されます。
2. 次のアクションを実行します。
 - **テンプレートの選択：** 一覧からドメインのテンプレートを選択します。詳細については、1-7 ページの「使用するコンフィグレーション ウィザード テンプレートの決定」を参照してください。
 - **名前：** ドメイン名を英数字で入力します。ハイフン (-) およびアンダースコア (_) も使用できます。このフィールドの最大長は、100 文字です。スペースは使用しないでください。[コンフィグレーション] ウィザードは、入力された名前を使用して、新しいドメインのサブディレクトリを作成します。
3. [Next] ボタンをクリックして、[サーバタイプを選択] 画面に進みます。

4. [Admin Server with Managed Server] オプションを選択し、[Next] をクリックします。[コンフィグレーション] ウィザードに、[ドメインの場所を選択] 画面が表示されます。
5. カスタムドメインを保存するトップレベルのディレクトリを入力するか、[Browse] ボタンを使用してディレクトリを選択します。ドメインディレクトリは、マシン上の有効な任意のディレクトリを指定できます。[Next] をクリックして、[管理サーバで管理対象サーバのコンフィグレーション] に移動します。
6. ドメインに新しい管理対象サーバを追加するには、[Add] をクリックし、[サーバを追加] ダイアログボックスの次のフィールドを記入します。
 - **サーバ名** : サーバ名を英数字で入力します。ハイフン (-) およびアンダースコア (_) も使用できます。スペースは使用できません。
 - **リスンアドレス** : サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。
 - **リスンポート** : リスンポートの番号を入力します。範囲は、1 から 65535 です。

注意 : サーバ名およびリスンアドレスを設定するときの考慮事項を確認するには、1-10 ページの「サーバ名およびリスンアドレスの決定」を参照してください。
7. [サーバを追加] ダイアログボックスの [Add] をクリックして新しい管理対象サーバを追加し、[管理サーバで管理対象サーバのコンフィグレーション] 画面に戻ります。

注意 : 間違えたため、追加したサーバを編集または削除したい場合は、サーバ名を選択し、[Edit] または [Delete] ボタンをクリックします。
8. 手順 6 を繰り返して管理対象サーバを追加するか、[Next] をクリックして [Configure Admin Server] 画面に移動します。
9. [スタンドアロン / 管理サーバのコンフィグレーション] 画面のフィールドを入力します。
 - **サーバ名** : サーバ名を英数字で入力します。ハイフン (-) およびアンダースコア (_) も使用できます。スペースは使用できません。
 - **サーバリスンアドレス** : サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

2 新しい WebLogic ドメインの作成

注意： サーバ名およびリスン アドレスを設定するときの考慮事項を確認するには、1-10 ページの「サーバ名およびリスン アドレスの決定」を参照してください。

- **サーバ リスン ポート：** リスン ポートの番号を入力します。範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7001 です。
- **サーバ SSL リスン ポート：** セキュリティ コンフィグレーションの SSL リスン ポート番号を入力します。範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7002 です。

10. [Next] をクリックし、[管理ユーザを作成] 画面に移動します。

11. コンフィグレーションした管理サーバを起動および接続するために必要なユーザ名とパスワードを入力します。パスワードは、8 文字以上にします。
[Next] をクリックします。

12. ビジネスプロセス管理機能を持つドメインの場合は、電子メールアドレスおよび電子メールホスト名を入力し、ワークフロー インスタンスから電子メールを送信できるように **WebLogic Integration** を有効にします。

13. Windows システムの場合は、[コンフィグレーション] ウィザードで、ドメインを **Windows** サービスとしてインストールします。これによって、**Windows** システムが起動されるたびに、**WebLogic Server** のサービスが使用できるようになります。このオプションを設定するには、**Administrator** 権限が必要です。beaSvc および DomainName_ServerName は、サービス名です。

注意： この設定は、**WebLogic Server** テンプレートおよびドメインに適用されます。サーバを **Windows** サービスとしてインストールするには、**Administrator** 権限が必要です。詳細については、次の URL にある『*BEA WebLogic Server 管理者ガイド*』の「**WebLogic Server** の起動と停止」の「**WebLogic Server** の **Windows** サービスとしての設定」を参照してください。

<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/wls/docs70/adminguide/startstop.html>

14. Windows システムの場合は、[コンフィグレーション] ウィザードで、**Windows** の [スタート] メニューにドメインをインストールします。[スタート] メニューにサーバの起動スクリプトを追加するには、[Yes] を選択します。
[Next] をクリックし、[コンフィグレーションの概要] 画面に移動します。

15. [コンフィグレーションの概要] 画面で、新しいドメインとサーバのコンフィグレーションを確認します。[Create] をクリックし、指定したサーバを含む新しいドメインを作成します。設定を変更する場合は、[Back] ボタンをクリックして目的の画面まで戻ります。

管理サーバおよびクラスタを持つドメインの作成

WebLogic ドメインを、クラスタ化された管理対象サーバを持つ管理サーバとして実行する場合は、管理サーバおよび管理対象サーバのクラスタが存在するクラスタ環境で実行することになります。

注意： 管理対象サーバには WebLogic Server が必要です。また、ドメインの一部としてコンフィグレーションする必要があります。管理対象サーバの詳細については、BEA WebLogic Server のマニュアルおよび 2-12 ページの「既存の WebLogic ドメインの拡張」を参照してください。

管理対象サーバのクラスタおよびスタンドアロンの管理サーバを持つ新しいドメインを作成するには、次の手順に従ってください。

1. 2-1 ページの「コンフィグレーション ウィザードの開始」に記載された手順に従って、[コンフィグレーション] ウィザードを開始します。以降の手順は、[コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで実行していると仮定して説明されています。
[コンフィグレーション] ウィザードに、[ドメインのタイプと名前を選択] 画面が表示されます。
2. 次のアクションを実行します。
 - **テンプレートの選択：**一覧からドメインのテンプレートを選択します。詳細については、1-7 ページの「使用するコンフィグレーション ウィザード テンプレートの決定」を参照してください。
 - **名前：**ドメイン名を英数字で入力します。スペースは使用できません。[コンフィグレーション] ウィザードは、入力された名前を使用して、新しいドメインのサブディレクトリを作成します。
3. [Next] ボタンをクリックして、[サーバ タイプを選択] 画面に進みます。

4. [Admin Server with Clustered Managed Server] オプションを選択し、[Next] をクリックします。[コンフィグレーション] ウィザードに、[ドメインの場所を選択] 画面が表示されます。
5. カスタム ドメインを保存するトップレベルのディレクトリを入力するか、[Browse] ボタンを使用してディレクトリを選択します。ドメイン ディレクトリは、マシン上の有効な任意のディレクトリを指定できます。[Next] をクリックし、[クラスタ化サーバのコンフィグレーション] 画面に移動します。
6. ドメインに新しい管理対象サーバを追加するには、[Add] をクリックし、[サーバを追加] ダイアログ ボックスの次のフィールドを記入します。
 - **サーバ名** : サーバ名を英数字で入力します。ハイフン (-) およびアンダースコア (_) も使用できます。スペースは使用できません。
 - **リスン アドレス** : サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

注意 : サーバ名およびリスン アドレスを設定するときの考慮事項を確認するには、1-10 ページの「サーバ名およびリスン アドレスの決定」を参照してください。

 - **リスン ポート** : リスン ポートの番号を入力します。範囲は、1 から 65535 です。
 - **サーバ SSL リスン ポート** : セキュリティ コンフィグレーションの SSL リスン ポート番号を入力します。範囲は、1 から 65535 です。
7. [サーバを追加] ダイアログ ボックスの [Add] をクリックして新しい管理対象サーバを追加し、[管理サーバで管理対象サーバのコンフィグレーション] 画面に戻ります。

注意 : 間違えたため、追加したサーバを編集または削除したい場合は、サーバ名を選択し、[Edit] または [Delete] ボタンをクリックします。
8. 手順 6 を繰り返して管理対象サーバを追加するか、[Next] をクリックして [クラスタのコンフィグレーション] 画面に移動します。
9. [クラスタのコンフィグレーション] 画面で、次の情報を入力します。
 - **クラスタ名** : 各クラスタ名を英数字で入力します。スペースは使用できません。デフォルト値は `mycluster` です。
 - **クラスタ マルチキャスト アドレス** : クラスタのマルチキャスト アドレスを入力します。アドレスは、`237.xx.xx.xxxx`、`238.xx.xx.xxxx`、または `239.xx.xx.xxxx` のいずれかで始まります。

- **クラスタ マルチキャスト ポート** : マルチキャスト ポートの番号を入力します。番号の範囲は、1 から 65535 です。
 - **クラスタアドレス** : クラスタに接続するためにクライアントが使用するアドレスを入力します。プロダクションとして使用する場合は、クラスタで管理対象サーバの IP アドレスをマップする DNS 名を入力します。テストまたは開発環境では、管理対象サーバに割り当てられた IP アドレスおよびポートを、カンマで区切った一覧を使用します (これはデフォルトのエントリです)。
10. [Next] をクリックし、[スタンドアロン / 管理サーバのコンフィグレーション] 画面に移動します。
11. [スタンドアロン / 管理サーバのコンフィグレーション] 画面のフィールドを入力します。
- **サーバ名** : サーバ名を英数字で入力します。ハイフン (-) およびアンダースコア (_) も使用できます。スペースは使用できません。
 - **サーバリスン アドレス** : サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。
- 注意** : サーバ名およびリスン アドレスを設定するときの考慮事項を確認するには、1-10 ページの「サーバ名およびリスン アドレスの決定」を参照してください。
- **サーバリスン ポート** : リスン ポートの番号を入力します。範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7001 です。
 - **サーバ SSL リスン ポート** : セキュリティ コンフィグレーションの SSL リスン ポート番号を入力します。範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7002 です。
12. [Next] をクリックし、[管理ユーザを作成] 画面に移動します。
13. コンフィグレーションした管理サーバを起動および接続するために必要なユーザ名とパスワードを入力します。パスワードは、8 文字以上にします。
[Next] をクリックします。
14. ビジネス プロセス管理機能を持つドメインの場合は、電子メール アドレスおよび電子メール ホスト名を入力し、ワークフロー インスタンスから電子メールを送信できるように **WebLogic Integration** を有効にします。

15. Windows システムの場合は、[コンフィグレーション] ウィザードで、Windows の [スタート] メニューにドメインをインストールします。[スタート] メニューにサーバの起動スクリプトを追加する場合は、[Yes] を選択します。[Next] をクリックし、[コンフィグレーションの概要] 画面に移動します。
16. [コンフィグレーションの概要] 画面で、新しいドメインとサーバのコンフィグレーションを確認します。[Create] をクリックし、指定したサーバを含む新しいドメインを作成します。設定を変更する場合は、[Back] ボタンをクリックして目的の画面まで戻ります。

シングルサーバドメインの作成

WebLogic をシングルサーバとして実行すると、サーバインスタンスは、管理サーバと管理対象サーバの両方の役割を果たします。このコンフィグレーションでは、シングルサーバインスタンスのため、フェイルオーバー機能はありません。

管理サーバとアプリケーション ホスト サーバの役割を果たすシングル

WebLogic Server インスタンスを持つ新しいドメインを作成するには、次の手順に従ってください。

1. 2-1 ページの「コンフィグレーション ウィザードの開始」に記載された手順に従って、[コンフィグレーション] ウィザードを開始します。以降の手順は、[コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで実行していると仮定して説明されています。
[コンフィグレーション] ウィザードに、[ドメインのタイプと名前を選択] 画面が表示されます。
2. 次のアクションを実行します。
 - **テンプレートの選択**：一覧からドメインのテンプレートを選択します。詳細については、1-7 ページの「使用するコンフィグレーション ウィザードテンプレートの決定」を参照してください。
 - **名前**：ドメイン名を英数字で入力します。スペースは使用できません。[コンフィグレーション] ウィザードは、入力された名前を使用して、新しいドメインのサブディレクトリを作成します。
3. [Next] ボタンをクリックして、[サーバタイプを選択] 画面に進みます。

4. [Single Server (Standalone Server)] オプションを選択し、[Next] をクリックします。[コンフィグレーション] ウィザードに、[ドメインの場所を選択] 画面が表示されます。
5. カスタムドメインを保存するトップレベルのディレクトリを入力するか、[Browse] ボタンを使用してディレクトリを選択します。ドメインディレクトリは、マシン上の有効な任意のディレクトリを指定できます。[Next] をクリックし、[Configure Single Server] 画面に移動します。
6. [スタンドアロン/管理サーバのコンフィグレーション] 画面のフィールドを入力します。
 - **サーバ名** : サーバ名を英数字で入力します。ハイフン (-) およびアンダースコア (_) も使用できます。スペースは使用できません。
 - **サーバリスンアドレス** : サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

注意 : サーバ名およびリスンアドレスを設定するときの考慮事項を確認するには、1-10 ページの「サーバ名およびリスンアドレスの決定」を参照してください。

 - **サーバリスンポート** : リスンポートの番号を入力します。番号の範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7001 です。
 - **サーバ SSL リスンポート** : SSL リスンポートの番号を入力します。番号の範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7002 です。
7. [Next] をクリックし、[管理ユーザを作成] 画面に移動します。
8. コンフィグレーションしたサーバを起動および接続するために必要なユーザ名とパスワードを入力します。パスワードは、8 文字以上にします。[Next] をクリックします。
9. ビジネスプロセス管理機能を持つドメインの場合は、電子メールアドレスおよび電子メールホスト名を入力し、ワークフローインスタンスから電子メールを送信できるように **WebLogic Integration** を有効にします。
10. Windows システムの場合は、[コンフィグレーション] ウィザードで、Windows の [スタート] メニューにドメインをインストールします。[スタート] メニューにサーバの起動スクリプトを追加する場合は、[Yes] を選択します。[Next] をクリックし、[コンフィグレーションの概要] 画面に移動します。

11. [コンフィグレーションの概要] 画面で、新しいドメインとサーバのコンフィグレーションを確認します。[Create] をクリックし、指定したスタンドアロンサーバを含む新しいドメインを作成します。設定を変更する場合は、[Back] ボタンをクリックして目的の画面まで戻ります。

既存の WebLogic ドメインの拡張

管理サーバを含まないマシン上に、管理対象サーバを持つドメインを作成するには、サーバタイプとして [Managed Server (with owning Admin Server Configuration)] を選択します。この操作によって、管理対象サーバ上でサービスを実行するために必要なドメインのファイルとスクリプトのほとんどがコピーされます。

注意： このコンフィグレーションプロセスでは、管理サーバから管理対象サーバに、config.xml はコピーされません。ドメインのディレクトリに、スケルトン XML ファイル (config.xml) が生成されます。管理対象サーバは、管理サーバから、このドメイン用 config.xml ファイルを使用します。

ドメインを作成するオプションの 1 つとして、ドメインの管理サーバを必要とせずに、ドメインの管理対象サーバをこのようにコンフィグレーションする方法があります。

新しい管理対象サーバを追加して既存のドメインを拡張するには、次の手順に従ってください。

1. 新しい管理対象サーバを実行するマシンにログインします。このマシンは、[コンフィグレーション] ウィザードが実行できるように、WebLogic Server インストールファイルにアクセスする必要があります。
2. 2-1 ページの「コンフィグレーション ウィザードの開始」に記載された手順に従って、[コンフィグレーション] ウィザードを開始します。以降の手順は、[コンフィグレーション] ウィザードを GUI モードで実行していると仮定して説明されています。
[コンフィグレーション] ウィザードに、[ドメインのタイプと名前を選択] 画面が表示されます。
3. 次のアクションを実行します。

- **テンプレートの選択** : 一覧からドメインのテンプレートを選択します。詳細については、1-7 ページの「使用するコンフィグレーション ウィザード テンプレートの決定」を参照してください。
 - **名前** : ドメイン名を英数字で入力します。スペースは使用できません。[コンフィグレーション] ウィザードは、入力された名前を使用して、新しいドメインのサブディレクトリを作成します。
4. [Next] ボタンをクリックして、[サーバタイプを選択] 画面に移動します。
 5. [Managed Server (with owning Admin Server configuration)] オプションを選択し、[Next] をクリックします。[コンフィグレーション] ウィザードに、[ドメインの場所を選択] 画面が表示されます。
 6. 起動スクリプトおよびデモセキュリティファイルを保存するトップレベルのディレクトリを入力するか、[Browse] ボタンを使用してディレクトリを選択します。[Next] をクリックし、[管理サーバ接続のコンフィグレーション] 画面に移動します。
 7. 新しいサーバが接続するリモート管理サーバについての情報を、フィールドに入力します。
 - **管理サーバ名または IP** : 管理サーバの名前と IP アドレスを入力します。
 - **管理サーバ リスポート** : 管理サーバのリスポートの番号を入力します。範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7001 です。
 - **管理サーバ SSL リスポート** : SSL リスポートの番号を入力します。範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7002 です。
 - **管理対象サーバ名** : サーバのマシン名を入力します。
 8. [Next] をクリックし、[スタンドアロン / 管理サーバのコンフィグレーション] 画面に移動します。
 9. [スタンドアロン / 管理サーバのコンフィグレーション] 画面のフィールドを入力します。
 - **サーバ名** : サーバ名を英数字で入力します。ハイフン (-) およびアンダースコア (_) も使用できます。スペースは使用できません。
 - **サーバリスポート** : サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。

2 新しい WebLogic ドメインの作成

注意： サーバ名およびリスン アドレスを設定するときの考慮事項を確認するには、1-10 ページの「サーバ名およびリスン アドレスの決定」を参照してください。

- **サーバリスンポート：**リスンポートの番号を入力します。番号の範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7001 です。
- **サーバSSLリスンポート：**SSLリスンポートの番号を入力します。番号の範囲は、1 から 65535 です。デフォルトのポート番号は 7002 です。

10. [Next] をクリックし、[管理ユーザを作成] 画面に移動します。
11. コンフィグレーションしたサーバを起動および接続するために必要なユーザ名とパスワードを入力します。パスワードは、8 文字以上にします。[Next] をクリックします。
12. ビジネス プロセス管理機能を持つドメインの場合は、電子メールアドレスおよび電子メールホスト名を入力し、ワークフロー インスタンスから電子メールを送信できるように **WebLogic Integration** を有効にします。
13. Windows システムの場合は、[コンフィグレーション] ウィザードで、Windows の [スタート] メニューにドメインをインストールします。[スタート] メニューにサーバの起動スクリプトを追加する場合は、[Yes] を選択します。[Next] をクリックし、[コンフィグレーションの概要] 画面に移動します。
14. [コンフィグレーションの概要] 画面で、新しいドメインとサーバのコンフィグレーションを確認します。[Create] をクリックし、指定したサーバを含む新しいドメインを作成します。設定を変更する場合は、[Back] ボタンをクリックして目的の画面まで戻ります。